学習内容報告書 フォーマット

学校名	八王子市立散田小学校
授業者	萩原 美保、数牛 勝太、古重 圭太朗、島田 学

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

便利なプラスチック生活の不都合な真実Ⅰ

1-2. 学年

第５学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

○便利なプラスチック生活の不都合な真実Ⅰ～あなたはガマンできますか？【第５学年】 ・第４学年社会「廃棄物の処理」、第５学年社会「公害防止の取組」の発展として実施する。 ・国内外のプラスチックごみ汚染の状況（プラスチックの生産量や使用料、用途なども含む）や対応について調べたり、専門家の話を聞いたりする。 ・調べたことを基に、「プラスチック・フリー」な生活について考え、本当に実行可能かどうか、自分たちの生活を振り返りながら議論する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

廃棄プラスチック問題の現状や対策を調査する活動を通して、便利な生活や発展する産業が生み出す廃棄物と社会や世界に与えている影響との関わりなどについて考え，自分たちの生活を見直して持続可能な社会を創造し実践しようとする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

(1) 廃棄プラスチックに関する国内外の現状にから設定した学習の課題について、解決に必要な知識及び技能を身に付け，これまでの学習を生かしながら課題に関わる概念を形成する。 (2) 廃棄プラスチックに関する国内外の現状について実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。 (3) 廃棄プラスチックに関する国内外の現状から設定した学習の課題について主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，廃棄プラスチック問題への取組に積極的に参画しようとする態度を養う。

1-7.　単元の展開（全８時間）

<table>
<tr><th>時数</th><th>○学習活動・主な内容</th><th>◆教師の指導 / ◇主な評価
☆外部連携 / ●使用教材等</th></tr>
<tr><td>1
・
2</td><td>○我が国の廃棄プラスチックの現状について知る。
・海岸に大量のプラごみが漂着している。海底にもプラごみがある。
・世界中のプラごみが途上国に集まっている。
・プラごみの中に日本のものが多くある。
○廃棄プラスチックの現状について感想や疑問を伝え合い、問いを見出す。
（例）
・日本はプラごみを外国に捨てているのか？
・プラごみはリサイクルされているのではないか？
・どのくらい量が排出されているのだろうか？
・何か対策はしていないのか？
・どのようにしたらプラごみを減らすことができるのだろうか？</td><td>●国内の廃棄プラの不法投棄の様子（写真）
●途上国の海岸に漂着した廃棄プラ（写真）
●処理場のあるベトナム・ミンカイ村の様子（写真）
●日本語が書かれたプラゴミ（写真）
◇プラスチックごみ汚染の問題について、資料や話し合いから問いを見出している。【思・判・表】</td></tr>
<tr><td>3</td><td>○見出した問いを基に、調査のテーマと具体的な課題を設定し、学習計画を立てる。
（テーマ例）我が国の廃棄プラスチックの現状はどのようになっており、どのような対策に取り組んでいるのだろう。
課題①プラごみはどのようにして生まれているのか。
（プラスチックの用途、生産量、廃棄量など）
課題②プラごみをどのようにして処理しているのか。
（国内での処理、リサイクルの現状、ごみの輸出など）
課題③プラごみを減らすためにどのような取組をしているのか？
（プラスチック資源循環戦略、「日本モデル」）</td><td>◆個々が見出した問いについてウェビングなどで整理し、パッケージにさせる。
◆調査する内容や方法について、社会科での学習を想起させる。書籍、ホームページ、体験、聞き取りなど関する情報を提供する。
◇見出した問いから課題を整理し、調べる内容や方法について明確にし、学習計画を立てている。
【主体的に学習に取り組む態度】</td></tr>
<tr><td>4</td><td>○課題①について書籍や体験等で調査する。
・プラスチックの使用は我が国の日常生活や産業の隅々まで浸透しており、なくてはならないものとなっている。
・国内で生産されるプラスチックは年間約1000トン。一人当たり約70kg。ほぼ同量が廃棄されている。</td><td>●「地球が危ない プラスチックごみ2　日本中にあふれるプラスチック」：汐文社
●家庭や学校で1日に出されるプラゴミ量調べ
◇課題の解決について必要な情報を資料から読み取ったり、体験から集めたりしている。【知・技】
◆以下、課題について調査をする中で、個々が見出した問いについても解決することができたか確認する。
◇学習を振り返ったり、見直したりしながら課題について調査している。【主体的に学習に取り組む態度】随時</td></tr>
</table>

5	○課題②について聞き取りや書籍等で調査する。 ・廃棄プラスチックは、リサイクル、熱回収、焼却、埋め立てなどにより処理される。 ・リサイクルされる廃棄プラは全体の 1/4 だけである。 ・リサイクルには大きなコストと手間がかかる。 ・廃棄プラのうち約１５０万トンが途上国に「輸出」されていた。 ・途上国は廃棄プラを処理しきれず、世界的な環境汚染の大きな要因となっている。 ・廃棄プラの輸入を禁じる国も出始め、その分国内に滞留するようになっている。	◇４年生社会「廃棄物の処理」の学習を振り返る。 ●資源循環部職員への聞き取り調査 ☆八王子市資源循環部戸吹クリーンセンター ●「地球が危ない プラスチックごみ２　日本中にあふれるプラスチック」：汐文社 ◆リサイクルが「万能の」処理方法ではないことや廃棄プラスチックの処理について途上国に依存していることに気付かせる。 ◇課題の解決について必要な情報を、聞き取り調査から集めたり、資料から読み取ったりしている。 【知・技】
6・7	○課題③について聞き取りやインターネット等で調べる。 ・２０１９年に政府は「プラスチック資源循環戦略」を策定した。基本原則は「３Ｒ＋Renewable」であり、具体的数値目標が示された。 ○「スマート・プラスチック」の具体例について調べ、その効果について意見を伝え合う。 （例） ・使用量削減、代替素材　・バイオプラ	●「日本モデル」について専門職員からの説明 ☆八王子市環境部環境保全課 ◆説明において「日本モデル」の具体例についても触れ、その後、児童が他の具体例を調べることができるようにする。 ●「プラスチック・スマート」：環境省ＨＰ ◆具体例が、廃棄プラ問題の解決に有効か、クリティカルに考えるようにする。 ◇廃棄プラ問題の取組について、課題①や課題②の解決策となり得るか検討し、自分の意見を伝え合っている。【思・判・表】
8	廃棄プラの問題について、自分たちができることは何か。また、それは本当に可能なのか。 ○様々に提案されている、「プラスチック・フリーな生活」について思考実験（または体験）をし、自分たちの生活を振り返る。 ・プラスチック使用量を削減するための個人の取組は様々にある。しかし、継続的に取り組むためには、相当な意識と覚悟が必要である。	●「アクションリスト」「プラスチック・フリー生活 今すぐできる小さな革命」：ＮＨＫ出版他など ◇廃棄プラ問題について、自分の生活を振り返り、実行可能なことについて考え、自分の意見を伝え合っている。【思・判・表】

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元 | 8 | 時間中の | 8 | 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

自分たちのプラスチックの使用量を削減する具体的な取組について、思考実験を通して検討し、自分たちが実行可能なことを考え、自分の意見を伝え合う。

2-3.　本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	◆教師の指導・支援 ◇評価の視点（方法）
○「スマート・プラスチック」の取組の中で自分たちに実施可能なものについて考える。 ・レジ袋をできるだけ使わないなど、自分たちがプラスチックの使用量を減らすことはできそうである。	
自分たちの生活でプラスチックの使用量を減らす方法は何か。また、それは本当に可能か。	
○「アクションリスト」から、具体的な行動例について調べ、挙げられた方法について、実行可能か検討する。 ・レジ袋をもらわないようにすることはできそうだ。 ・プラスチック包装のものはできるだけ買わないというけど、そういう商品は少ない。 ・お菓子とか大袋のものを買うのはよいけど、食べきれずに却って無駄にしてしまうのでは？ ・タッパとか保存する容器に入れればよいのでは。繰り返し使うこともできる。 ・確かにそうだけど、全部のものをそうするのは正直大変だな。	◆プラスチック製品をできるだけ使わない行動例を示した「アクションリスト」を用いる。 ◆具体的な行動について、実際の生活場面を振り返り、自分たちが継続的に続けられるかどうか考えさせる。 ◇廃棄プラ問題について、自分の生活を振り返り、実行可能なことについて考え、自分の意見を伝え合っている。【思・判・表】（発言・ノート）
このまま、プラスチックを大量に使う生活を続けていくのか。	
・効果は小さいかもしれないけど、エコバックをもっていくことはできる。できることから取り組まないといけないと思う。 ・自分たちだけは正直難しい、でもこのままプラごみが増えるのは人間だけでなく、環境全体にとってよくない。 ・「スマート・プラスチック」にもあったように、素材とか商品の開発もやっぱり大切である。みんなで取り組まないと…。 ・もう少しみんなで、良い方法を考えたい。	◆ここで拙速な結論は求めないようにする。実際に取り組んでみる、体験してみるなど学び続けることが大切であること気付かせるようにする。

3.　今回の活動の自己評価

・廃棄プラスチック問題の現状について、関心を高めることはできたが、取り上げた事象の性質から「景観の美観を損ねる」などの視覚的な要素や情緒的な要素から問題を捉えている児童が多かった。
・廃棄プラスチック問題が発生する要因や、問題への対応について調べる場面では、扱う内容がやや抽象的かつ網羅的で、調査の活動に困難を感じる児童もいた。
・自分たちの生活を見直す際、プラスチック使用量を削減するための具体的な行動例についてクリティカルに検討することで、「廃棄プラスチックを削減するは当然」という考えにすぐに飛びつくのではなく、自分たちの生活が、いかにプラスチック製品に依存しているかということや問題の複雑さに気付き、冷静に向き合う姿勢を見せる児童が多くいた。

4.　今後の課題

・この学習は６年生「便利なプラスチック生活の不都合な真実Ⅱ」につながる。次の単元までに約１年の期間がある。各教科等の学習と廃棄プラスチック問題とを関連付けるなどして、学習したことを自分たちが設定した課題の解決に生かしていく学びを習慣づけていく必要がある。
・廃棄プラスチック問題について、児童に調査の必要感をより強くもたせるために、単元導入の事象提示において、環境や生物への影響についてより具体的に取り上げるなど、６年での学習を含めて単元の指導計画について改めて検討する必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・３つの課題について網羅的に調査させるのではなく、一人一人が課題を選択あるいは分担して調査をし、伝え合う方法も考えられる。児童の実態に応じて学習形態を工夫する必要がある。
・扱う内容が抽象的、網羅的になりやすいので、調査の際に取り上げる資料について、児童の実態に合ったものを準備し、その種類や量も精選する必要がある。

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20㎜、左右端 16㎜
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。